

くにや ふるさとに したしむ

34 がんばれ まごべえ

主題名：ふるさとを大切に

教科書：122・123ページ

内容項目：C 伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度

指導時期：適時

ねらい

力いっぱい闘うまごべえの姿について考えることをとおして，地域の伝統行事のよさや楽しさに気づき，自分たちの郷土や地域の行事を守り，すすんで参加しようとする心情を育てる。

■ 育てたい児童の姿

- ①自分が住む地域にある昔から続く行事などを知り，それがとても大切なものであることがわかる。
- ②地域の行事の楽しさやよさについて，さまざまに考える。
- ③地域の行事などにすすんで参加していこうとする意識を高める。

主題設定の理由

〔1〕ねらいとする価値

「伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度」に関する内容項目は，低学年においては，「我が国や郷土の文化と生活に親しみ，愛着をもつこと。」とされている。また，『小学校学習指導要領解説』では，低学年においては，「昔の遊びを体験したり，地域の行事などに参加して身の回りにある昔から伝わるものに触れたりする機会が多くなる。このことを通して，家庭や学校を取り巻く郷土に目が向けられるようになる。」と述べられている。

人間にとって自分が生まれ育った郷土は，心のよりどころであり，生涯にわたって心の支えとなる大切なものである。1年生の段階から，自分が住む地域の行事や文化に関心を向け，親しむ経験を積み重ねることによって，郷土を大切にしたいとする心情が育っていく。身近にある行事や遊び，伝統文化などに積極的に関心を向けさせ，郷土のよさに気づき，大切にしようとする思いを育てる必要がある。

〔2〕児童の実態

1年生の児童は，学校生活をとおして，地域に伝わる遊びを体験したり行事に参加したりして，昔から続いてきた文化や伝統にふれることが多くなる。その中で，自分の住む地域には大切な行事があり，大人も子どもも楽しみにしていることに気づき，自分もすすんで参加しようという思いをもつことが大切になる。そこで，児童が自分の住む地域に関心を向け，行事などで多くの人々とふれ合い，郷土のよさを体験的に知ろうとする意欲を育てていきたい。

〔3〕教材について

本教材は，新潟県長岡市の山古志地域で古くから伝わる「牛の角突き」を題材にした話である。

主人公の「ぼく」は，牛の角突きが大好きで，角突きの横綱「まごべえ」を応援している。「ぼく」は他の町から来た観客と一緒に頑張って声援を送る。闘い終わったまごべえへの拍手を受けて，「ぼく」は自分がまごべえになったような気分になり，次の角突きも絶対に見に行きたいと思う。

地域の伝統行事「牛の角突き」を誇りに思う主人公の気持ちに着目させながら，児童に自分のまわり

にある身近な行事に目を向けさせるきっかけにしたい。さらに、自分の住む地域にある自慢したい行事や文化を探りながら、「参加してみたい」という思いを膨らませたい。

なお、山古志の「牛の角突き」は神事がもとになっているため、牛が傷つかないように勝敗はつけず、引き分けにするといわれている。

■ 出典：編集委員会 作

主体的・対話的で深い学びの実現のために

◆ 展開の工夫

教材を読み聞かせながら、「ぼく」が牛をなでている挿絵を提示し、まごべえに対する「ぼく」の気持ちを、吹き出しを使って想像させる。次に、まごべえを応援する挿絵を手がかりに、実際に「ぼく」になりきって声を出させ、応援している時の「ぼく」の思いを想像させる。「ぼく」だけでなく、他の町から来たたくさんのお客さんの気持ちも考えさせながら、牛の角突きを、大人も子どもも大喜びで楽しんでいることに気づけるようにする。

さらに、まごべえに大きな拍手が送られている時の「自分が、まごべえになったようないい気分」を考えさせ、実際に拍手を受けながら、「ぼく」の気持ちを発表する活動を役割演技で行う。「ぼく」が行事に参加することで得た充実感を想像させ、地域の行事にすすんで参加したいという意欲を育てていきたい。

◆ 教材活用の工夫

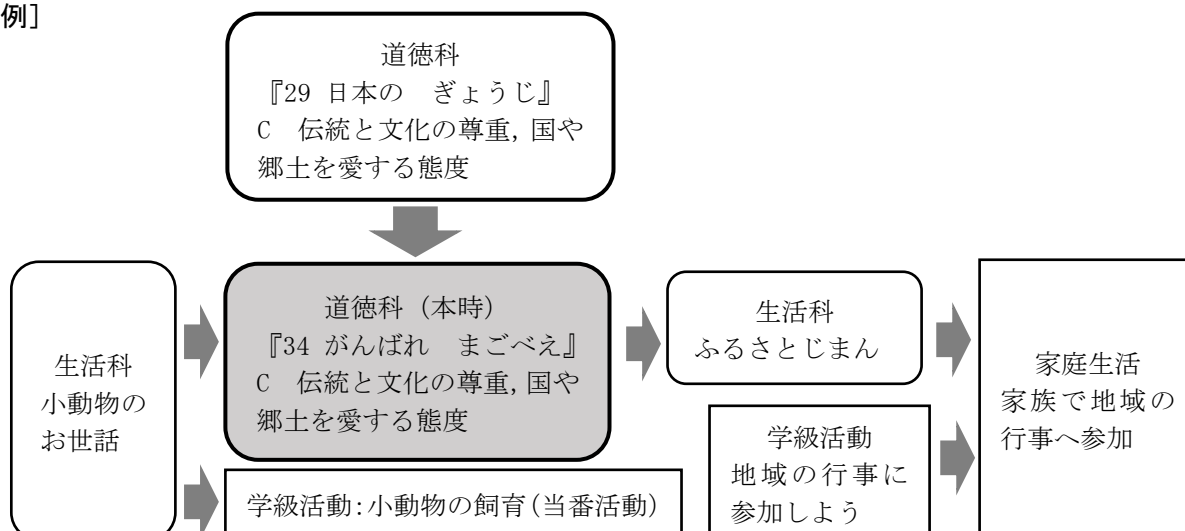
どの地域にも、昔から伝わる行事や文化が残されている。その中には、1年生が参加したり見学したりできるものも多い。それらを事前にリストにまとめたり、写真や映像を用意したりしておきたい。

終末では、主人公の「ぼく」のように、楽しい行事があるかを考えさせ、自分たちが住む郷土にも素晴らしいものがあることを児童の視点から捉えさせていく。事前に調べたリストから身近な行事を選び、写真で提示するなどして、自分たちの身のまわりや郷土には素敵な行事がたくさんあることに気づかせ、家族にも聞いてみようという思いにつなげていきたい。また、家族と参加した思い出を発表させるなど、その楽しさを共有することも大切である。

この教材と関連する内容項目、他の教科・活動

[内容項目] B 感謝 / C 家族愛、家庭生活の充実 / D 自然愛護

[例]



展開例

	児童の学習活動，発問，予想される児童の反応	指導上の留意点
導入	自分の生活体験を振り返る。 ○今までに，自分が住む近くで行われたお祭りなどの行事に行ったことがありますか。 ・ある。 ・ない。 ○今日は，地域のお祭りや行事などについて考えていきましょう。	* 終末の発問とも関わるので，ここでは簡単にふれる程度にとどめたい。 * 「牛の角突き」がどのような行事なのかということを，教材を読む前後に説明しておくといよい。
展開	教材を読み，「ぼく」の気持ちを考える。 ○「ぼく」は，まごべえをなでながら，どんなことを話しているでしょう。 ・まごべえ，がんばって。 ・まごべえ，応援しているよ。 ○「ぼく」はどんなふうに応援しているのでしょうか。みんなで声を出してまごべえを応援してみましょう。 ・（全員で）がんばれ，まごべえ。 ・（全員で）行け，まごべえ。 ○みんなで応援している時，どんな気持ちでしたか。 ・すごく「まごべえ，がんばって。」という気持ちになった。 ・運動会みたいに，応援した。 ・みんなで一緒に応援して，わくわくした。 ・まごべえ，カッコいい。 ○他の町から来たお客さんも応援していますね。お客さんはどんな気持ちでしょう。 ・「がんばれ」という気持ち。 ・「ぼく」と同じ気持ちになった。 ・どっちの牛も応援したい。 まごべえを誇らしく思う「ぼく」の気持ちについて，役割演技をとおして考える。 ① まごべえに大きな拍手が送られた時に，「ぼく」はどんな気分になったでしょう。 ・とてもいい気分になった。 ・自分が闘ったような気持ちになった。 ・大好きなまごべえが褒められてうれしい。 ・とてもすがすがしい。 ・「次もがんばって」という気持ちになった。 ・次の「牛の角突き」も楽しみだと思った。	* 教材を読み聞かせながら，教科書 p. 122 の挿絵を提示して発問する。 * 教科書 p. 123 の挿絵を提示しながら，全員で起立し，声を出して応援する。 * クラスの実態に応じて，「牛の角突き」の映像を見せながら，声を出させることも考えられる。 * 応援を数回繰り返してから，みんなで応援している時の気持ちを発表させる。 * 視点をお客さんに変え，「ぼく」だけでなく，他の人も楽しんでいることに気づかせる。 * 役割演技を行い，拍手された自分を体験し，「自分がまごべえになったようないい気分」を想像させていく。
終末	自分たちの地域の行事などについて話し合う。 ○「ぼく」のように，楽しみにしている行事がありますか。 ・神社の夏祭り。 ・秋祭り。	* 地域の祭りや行事の写真などを提示することも効果的である。行事に参加した時の楽しい気持ちも発表させたい。

・花火大会。 ・お正月のかるた大会。 ②今日の授業で考えたことや感じたことをまとめましょう。	*地域の行事に親しむ気持ちを高め、本時の内容を自分の生き方にどのように反映させるかを考えさせたい。
--	--

板書例

○みんなが たのしみに して いる ぎょうじ
なつまつり あきまつり 花火たいかい
かるたたいかい

◎大きな はくしゅが おくられた ときの 気持ち

うしの つのつき

がんばれ まごべえ



がんばれ まごべえ

牛の角突きの写真

- ・むかしから つづいて いる。
- ・おきやくさんも いっぱい。
- ・みんな たのしみ。

うしの つのつき

がんばって、がんばって。ぼくらがついてる。

まごべえ、がんばれ。いけ、まごべえ。

まごべえ だいすきだよ。がんばってね。

おきやくさんも いっぱい きて いるよ。

まごべえ、がんばって。おうえんして いるよ。

じぶんが まごべえになつた 気分

とても いい 気持ちだな。

つぎも がんばって ほしい。

つぎも たのしみだな。

みんなが たのしみに して いる ぎょうじ
なつまつり あきまつり 花火たいかい
かるたたいかい

児童の学習状況（活動）の評価

【評価の視点】

- ①友達の考えにふれ、地域の行事に親しむよさや楽しさについて、多面的・多角的に考えることができるか。（授業中の姿や発言，ワークシートの記述）
- ②主人公の立場に共感しながら、地域の行事のよさや楽しさについて、自分との関わりで考えることができるか。（授業中の姿や発言，ワークシートの記述）

【評価文（例）】

- ◇ 教材に出てくる登場人物の気持ちに寄り添いながら、自分のこととして考えることができます。特に教材『がんばれ まごべえ』の学習では、主人公になりきって「牛の角突き」の応援をしたり、地域の行事を楽しむよさを発表したりしていました。
- ◇ 友達の意見によく耳を傾け、自分の考えを深めることができます。教材『がんばれ まごべえ』の学習では、地域の行事に楽しく参加した経験を発表し、友達の話を聞きながら、他にも大勢の人が楽しみにしている行事がたくさんあることに気づき、これからもすすんで参加しようとする意識を高めていました。